

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第2019年版、名古屋市長官公署環境政策推進課環境マニュアル2019) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)松原1丁目Sプロジェクト	階数	地上14F
建設地	中区松原1丁目1411番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	52 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年1月13日
敷地面積	367 m ²	作成者	
建築面積	231 m ²	確認日	2021年1月14日
延床面積	2,549 m ²	確認者	



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.0 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C 環境品質 Q 環境負荷 L BEE=1.0 46	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 4 Q3 室外環境(敷地内) 3 LR1 エネルギー 2 LR2 資源・マテリアル 1 LR3 敷地外環境 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2 音環境 3.2 温熱環境 3.0 光・視環境 3.1 空気環境 3.5	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8 機能性 2.6 耐用性 3.0 対応性 3.0	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4 生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性・ 3.0
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4 建物外皮の 4.0 自然エネ 3.0 設備システ 3.4 効率的 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 水資源 3.0 非再生材料の 3.1 汚染物質 3.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8 地球温暖化 3.0 地域環境 2.5 周辺環境 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
1階に店舗スペースを設けることで周辺の賑わいに貢献できるように配慮した。大通りの面した東面は外観に変化を持たせたデザインとし景観に配慮した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
省エネ基準を満たした断熱性能とし、室内の温熱環境に配慮した。	光ケーブル用空配管を設置することで、躯体、仕上を傷めることなく修繕・更新ができるように配慮した。	駐輪場を建物の奥に配置し、建物周囲に監視カメラを設置することで防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物の断熱性能を省エネ基準に適合させ建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。	ノンフロン発泡性断熱材を採用することで汚染物質含有材料の使用回避に配慮した。	省エネ基準を満たした外皮性能とし、すべての照明にLEDを採用することで温熱環境悪化の改善に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 名古屋

評価結果

重点項目スコア・結果シート

(仮称)松原1丁目Sプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2
	
2. 自然共生	評価点 = 1.6
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.1
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。